

サービスラーニングで学んだ事

社会福祉学部社会福祉学科 2年 岡本 紫

活動先：NPO 法人 もやい

ゼミ：村上 徹也 先生

私は今回のサービスラーニングで NPO 法人が地域に暮らす人々に与える影響とその必要性を理解することができた。

私は、特定非営利法人もやいで様々な活動に参加をし、地域に暮らす高齢者、障害者、子どもなどと接する機会をいただいた。そこで色々なことを見て感じ学ぶことができた。デイサービスでは、高齢者と知的障害者が集まり、もやいでご飯やゲーム、会話を楽しんでおられた。近年核家族が増え、近所間の繋がりも希薄になってきている。そんななか一人で過ごす時間が増えた方が大勢の人の中で時間を共有することのできる空間。そして支援をされる側になることが多い高齢者や障害者が一緒に過ごすなかで、お互いに支えあい補うことのできる空間を作ることができると分かった。



また訪問介護では日常生活のお手伝いをさせてもらうだけではなく、

たわいもない会話などのコミュニケーションもその人を支える支援の一つであると感じた。そして夏休みに地域の子どもたちを対象とした講座活動では、天体観測、染め物、お茶、飯盒炊飯、竹で流す流しそうめんなど、普段の生活では体験することができない内容ばかりがあった。参加する子どもたちの会話は「あの星はなんだろう？」「どうしたらきれいな色がでるだろう？」など



新しい疑問や発見であふれ、目を輝かせてキラキラとさせており、子どもたちにとって特別な夏休みの思い出がその場にあった。またお茶の体験の際、いつもはしゃいでばかりいる子どもたちが、先生が前に立ちお茶をたて始めた瞬間ピシッとした空気になったり、恥ずかしがり屋で他の人が話し掛けると隠れていた子が終わりにには色々なこ

と話せるようになっていたりした。このような事から、夏の講座は、子どもたちに夏休みの思い出を作るだけでなく、活動を通して文化や様々な年代の方とのかかわり方、場に応じた行動といった社会勉強の場にもなっていたのだと思う。そしてなにより子どもたちだけではなく、その親や近所のお年寄りの方々も集まり、大人も子どもも一緒になって目をキラキラとさせている様子や、はしゃぐ子どもたちを優しく眺めるデイサービスの利用者さんの姿が、強く印象に残った。

以上のような多世代にわたるもやいで活動に参加して、地域の人や職員さんに接して、もやいという場所は地域の方々の居場所と成長の場になっていることがわかった。どの人たちも生き生きとしており、もやいに参加することが楽しみの一つとなっていると感じた。また地域住民同士の関係の希薄化が問題になっているなかで、このような場があることは繋がり形成になる。それは地域で暮らすことへの安心にも繋がり、地域活性化にもつながってくると私は考える。地域に根差すNPO法人は地域づくりの重要な鍵になっていると知ることができた。

また今回のサービ斯拉ーニングの活動を行っている際中、活動を行ったメンバー全員が活動先にご迷惑をかけてしまったことがあった。遅刻や提出物の不備、欠席などが、対人関係を主とする活動でどれほど信用を失うことかについて、まだ深く理解することができなかつたために起こったことだった。



今回の活動で一人の人間としての脆さや甘さ、責任という言葉の重さを痛感し、そして自分たちがどれほど周りの大人に助けられていたのかに気づくことができた。時間や期限、姿、言葉遣い、行動、相手への配慮など、日常生活で見られるこれらの土台ができてからようやく人との信頼関係を積み重ねることができると、もやいの方がおっしゃっていた。そのことを身に染みて理解することができたことが、今回の活動を通して一番の私の学びと成長につながると感じる。これから、社会に出て大人になっていくためにも、もう一度自分を見直し学生である今、土台を固めて成長していかなければならない。また、それと同時に福祉に対する考えを深め、今よりもっと多くの知識や経験を積むことも大切だと感じた。そのためにも失敗を恐れ逃げることはせず、それを自分の中でどう学びに持っていくのが重要である。まだ私たちは学生であり、いろいろなことを学ぶことも、失敗も、挑戦もたくさんすることができる。そしてそこからいろいろなことを感じるができる。だからこそ今できることを行い、学生から社会人へと福祉を学ぶ人間として成長していきたい。6日間という短い間ではあったが、このような貴重な体験をさせていただいたもやいに感謝したい。そしていつか成長し社会人になった自分を堂々と見せに行くことができたらと感じる。